

高齢者の見守り効率化とひとり暮らし高齢者のQOLを向上させたい！

解決したいこと	①高齢者の見守りに係る負担を軽減したい ②ひとり暮らし高齢者のコミュニケーション機会を増やしてQOLを向上させたい
背景・現状	安城市におけるひとり暮らし高齢者数は、令和2年度から令和7年度にかけて約1,500人増加しています。加えて、高齢者のみの世帯も300世帯ほど増えており、地域での見守りがより一層必要となる反面、見守り人材は不足しており年々負担が大きくなっています。 本市では地域の包括支援センターや民生委員、地域住民等の協力により高齢者の見守りを行っています。見守りでは高齢者の生活状況の変化等を察知し必要なサービスに繋げることや、高齢者が自己管理意識を持ち続けられるよう外部との繋がりを保つことが重要です。特に、ひとり暮らしの生活の中では自分一人で判断する場面が多く、気楽に助言をもらったり、情報を得る機会が少ないため、見守りは地域福祉にとって重要な取組みと考えています。
課題	増加する高齢者数に対し見守り人材が不足していることが課題です。 また、ひとり暮らし高齢者に関しては外部とのコミュニケーションをとる機会が少なく、自己管理意識を持ち続けることが難しくなりがちのため、本人も気づかないまま認知症の進行などが懸念されます。 こうした課題を包括的に解決する策として、AI・IoTの活用が有効と考えますが、多くの高齢者はデジタルツールの利用に消極的であり、ハードルが高いと感じています。
提案して欲しいこと	高齢者を効率的に見守ることができ、かつひとり暮らし高齢者のコミュニケーション機会を増やす仕組み。 デジタルツールを活用した仕組みが望ましいですが、高齢者が簡単に操作でき、生活の中で継続的に利用できる提案をしていただきたいです。
想定する解決策	包括支援センターと対話もしくは通信データやログを確認することができるタブレット端末を高齢者に貸与し、安否確認を行う。また、タブレットには対話型AIを導入し、高齢者の生活に合わせて声掛けを行う。
提供できるリソース	ひとり暮らし高齢者のリスト・介護認定度別リスト
想定する事業実施時期	今年度中に実証実験を行い、事業の有効性を見極めたい。
予算措置の可能性	現時点で予算がないため、内容次第で必要があれば、翌年度以降の予算要求に反映する可能性あり
担当課	高齢福祉課地域支援係